



114
A 2485



謹
啓

下ニ白ス僕嚮ニ商下ヨリ下附マレタル向題即
 所ノ投機賣買ハ紙幣下落ノ一因ナリトノ儀ニ付
 其下落ハ全ク輸入ノ超過スルガ為ノ正貨ノ外出スルニ
 原由マシトモ試ニ東引所規則中具改正シ得ベキ
 シトハ思ハザリシモ試ニ東引所規則中具改正シ得ベキ
 西ニ条ヲ指摘セリキ
 僕想ノニ今ヤ紙幣ノ下落ヲ抑止セント為メ百方巨款ノ
 策ヲ施スモ却テ益々低落ニ陥イル所以ノ者ハ蓋シ曾テ
 陳述セシ正貨外出ノ原由ニ外ナラザルベシ
 然レニ聞ク所ニ據レバ政府ハ其紙幣ノ價格ヲ騰貴セシ
 ノ且ツ之ヲ鞏固ナラシメンガ為メ既ニ兩三日前元光院
 ニ紙幣引換公債証書ヲ発行シ以テ紙幣ヲ換収スルノ議
 ヲ下附シタリト又該証書ハ正貨ヲ以テ其利子ヲ拂ヒ且

大
大
正
十
一
年
四
月

正債ヲ以テ十二年間ニ悉皆償還セラルベキモノナリト尤々其詳細ハ僕之ヲ知ラスト雖此左ニ聊カ愚見ヲ呈セント欲ス

第一 僕竊カニ恐ル右ノ方法ハ政府ヲシテ其希望セル成績ヲ得マシムルニ足ラス紙幣ノ下落ハ益々甚シクラシテ何トナレバ此下落タルヤ元ト内國人民ノ紙幣ヲ信任セザルニ由ルニ非ス其原因ハ外國ニ出スベキ正債ノ需要漸ク多ク而シテ之ヲ供給スルニ漸ク難ク随テ洋銀ノ價格益々騰貴スルニ在レハナリ

蓋シ經濟上ノ通則ニ從ヘハ物品ノ需要愈々多クシテ供給愈々少キキハ從テ其價格ヲ騰貴ス方今洋銀ノ騰貴ハ即チ是レナリ

故ニ今公債証書ヲ以テ之ヲ紙幣ニ交換スルモ元ト外出スヘキ正債ヲ増殖スルニアラサレバ紙幣ノ下落スベキ病根ハ尚ホ依然トシテ存在スヘク而シテ其下落ハ益々甚シカルベシ

第二 若シ紙幣引替公債ヲ以テ紙幣及々洋銀ノ相場ニ勢威ヲ逞フマシメント欲セバ又右公債証書ヲ外國人ノ間ニモ融通セシノフル能ハス若シ果テ外國人ノ間ニモ融通スルヲ許サバ該証書ハ外國人ノ正債ヲ以テ買受クベキ物品トナリ内國人ヨリ之ヲ賣渡ス金高ニ從テ銀貨ノ外出及々其需要ヲ減殺スルヲ得ベシト雖此外國人ニ許スニ公債所有ノ權ヲ以テスルハ僕經濟上ノ現由ニ於テ本邦ノ為メ取ラサル所ナリ

第三 經濟上ノ理由トハ即チ左ノ如シ
政府若シ該公債証書ヲ賣却シ以テ銀貨ヲ買入レント欲

セハ間接ニ本邦私人ノ手ニ藉ラ之ヲ歐人ニ賣ラシヨリ
ハ寧口直接ニ歐米ノ市場ニ於テ賣ルヲ優レリトス何
トナレハ本邦ニ私人ノ手ヨリ之ヲ買フニ方リ龍動、巴里、
伯林又ハ新紐克等ノ低利ノ市場ニ於テ本國人ノ之レヲ
買フヨリハ少ナキ元金(銀四)ヲ以テ之レト同額ノ利子ヲ
得ベキ公債証書ヲ買入ル、一ヲ得ヘク而シテ政府ニ在ラ
ハ外國ニ募ルモ内國ニ募ルモ其日本國債トナルニ至リ
テハ蓋シニツナカラ殊ナル一ナケレバナリ

今假リニ此新公債ノ利價ヲ内國募集ヲ七朱トシ外國募
集ヲ五朱四分ノ一トシテ之ヲ算スルハ内國ニ於テ募
集スベキ金額ノ乘數ハ十四ト七分ノ二又歐洲ニ於テハ
十九ト二十一分ノ一ニシテ若シ年々百万円ノ利金ヲ拂
フトナサハ内國ニ於テハ千四百二十八万五千七百十四

弗歐洲ニ於テハ千九百〇四万七千六百十九弗ノ元金ヲ
領収スル一ヲ得ベシ又此兩種ノ利價ヲシテ一ヲハ朱ト
シ又一ヲ六朱トシテ假算スルハ齊シク百万円ノ利金
ヲ拂々内國ニテハ千二百万円又外國ニテハ千六百六十
六万六千六百六十七円ヲ得ルナルヘシ故ニ間接ニ本邦
私人ノ手ニ藉ラ之ヲ外國人ニ賣却セシヨリハ寧口直接
ニ歐洲ノ市場ニ於テ公債ヲ募集スルノ途カニ優ルニ如
カサルナリ

第四 以上諸項ニ陳述スル所ノ所見ヲ再々簡説スレバ
左ノ如シ

(甲) 紙幣引換公債証書ハ紙幣ノ下落ヲ抑止シ能ハザ
ルニシ

(乙) 若シ之レヲ抑止セント欲セハ公債ヲ外國人ノ手

ニ渡サバレルヲ得ス

(丙) 若シ此公債ヲ募集セバ直チニ外國ニ於テ募集スルヲ優レリトス

僕請フ次ノ諸項ニ於テ二箇ノ論點ニ涉リ其利害ヲ辨論セシ即チ其一ハ内債募集新公債(外國人ニ賣却スベカラザルモノ)其二ハ外國募集公債是ナリ

第五 政府ヨリ元老院ニ下附セラレタリ紙幣引替公債ノ方法ハ更ニ紙幣ノ下落ヲ抑止スルニ足ルベキ効用ナキヤ

曰然リ夫レ日本人中紙幣ノ尚ホ下落セシテ推定スルモノハ皆銀貨ヲ買フ是レ一ハ銀貨ヲ以テ其價位ヲ變セサルモノトシテ之ヲ貯藏センカ為メト一ハ後日善價ヲ待テ再々之ヲ賣却マンカ為メナリトス然ルニ引替公債

ヲ發行スル片ハ其銀貨ヲ貯藏セント欲スルモノハ必ス此一定ノ價格ヲ有スヘキ銀貨拂ヒノ利附公債証書ヲ買フヲ却テ利アリトシテ之ヲ買ヒ後日賣却マンガ為メ銀貨ヲ買入ルハモノハ紙幣ノ下落スルニ從テ該公債証書ノ騰貴セシテ億算スルカ故ニ無利息ノ銀貨ヨリハ寧ロ該利附公債証書ヲ買ハン一疑ナキカ故ニ此而シテ銀貨買収者ニ付テハ此公債ニ依リ幾分カ銀貨ノ需求ヲ減スルヲ得ベシト雖モ是ニ因テ減殺スヘキ銀貨ノ需求ハ僕ヲ以テ是レヲ視ルニ其量必ス少小ニ過キサルベシ何ントナレハ此買収者ハ兩種トモ其量最甚タ多カラザルベケレバナリ

故ニ紙幣ノ下落ハ是ヲ以テ抑止スル能ハスト雖モ唯タ其下落ハ是迄ノ如ク迅速ナラサルベシ

第六 該公債ハ紙幣ヲシテ今後他ノ物品例ハ米價等
ニ對シテ其價格ヲ保維セシムベキ効用ヲ有セザラン乎
曰然リ紙幣ハ銀貨ニ對シテ其價格ヲ減損スル間ハ銀貨
拂ビノ利附公債証書ニ對シテモ其割合ニ從テ之レヲ減
損スベク又該証書ニ對シテ之ヲ減損スル間ハ他ノ物品
ニ對シテモ其割合ニ從テ之ヲ減損スベキナリ

第七 甲然レバ該公債ノ發行ニヨリ若シ銀貨拂ビノ利附
公債証書ヲ始終同額ノ紙幣ヲ以テ賣却スルハ紙幣ニ
一定ノ價格ヲ假ス能ハサルカ又同額ノ紙幣ヲ以テ同額
ノ銀貨ヲ買ビ得ルハ其銀貨ニ對スル減價ヲ抑止シ得
ベカラサルカ又該公債ノ利價ヲ七朱トシ而シテ銀貨ニ
對スル現今ノ紙幣相場ヲ百五十八圓トスルハ其七朱
利附ニシテ且ツ銀貨百圓ヲ以テ償還セラルヘキ公債証

書ハ即チ百五十八圓ノ紙幣ヲ以テ買得ヘシ而シテ政府
ハ現今及々今後ニ於テモ更ニ紙幣相場ニ關係セスシテ
常ニ該証書ヲ百五十八圓ニ賣却スルハ能ク紙幣相場
ヲ現今ノ價位ニ留メ變動ナカラシムルヲ得ベキカ
政府若シ果テ此策ヲ行ハ、其幣ヤ日本ノ財主ニシテ今
銀貨ヲ所有スルモノヲシテ紙幣ノ下落ヲ速ヤカニセン
ガ為メ必ス種々ノ奸計ヲ施サシムルニ至ルベシ何ント
ナレハ紙幣ノ相場百五十八圓ノ時ニ於テハ該証書ヲ百
五十八圓ヲ以テ買入ルハク其間更ニ得失ナキモ例ハハ
二百三十七圓ノ時ニ於テモ亦同シク百五十八圓ヲ以テ
之レヲ買取ルルヲ得ルカ故ニ斯ノ場合ニ於テハ即チ百
圓ノ銀貨ヲ以テ一ト二分ノ一ヲ買ビ得ル割合ニシテ取
リモ直カス百圓ノ銀貨ヲ以テ百五十八圓ノ銀貨ヲ得又七

四ノ代リニ十田ノ利金ヲ得レハナリ故ニ現今ノ銀貨所
有者ハ紙幣ノ下落愈々大ナレハ愈々巨多ノ利金ヲ得ヘ
キノミ
又此時ニ至テハ銀貨ヲ買取ル投機者ハ所謂ル彼ノ銀環
銀貨ヲ以テ投機賣買ヲ為シ其買占タル銀貨ヲ蓄積シ置
キ而テ市場ニ現出スル銀貨ハ皆之ヲ買収スルカ故ニ之
レカ為ノ紙幣ノ下落ハ益々甚シキニ至ルベシ然リ而テ
始終輸入高ノ超過スルニ依リ多少銀貨ノ需要アルカ故
ニ投機者等ハ紙幣最低ノ場合ニ乘シテ其蓄積セル銀貨
ヲ最低ノ紙幣ニ換テ賣却シ而テ復此紙幣ヲ以テ夫ノ引
換公債証書ヲ買入ルハナルベシ
元來銀貨ノ益々騰貴スルハ始終輸入高ノ超過スルガ為
ノ新ハス外出スベキ銀貨ノ需要ヲ來シ是ニ因テ漸次内

國ノ蓄藏高ヲ減耗スルニ由ルモノナルカ故ニ假令本邦
人中銀貨ヲ占買スル投機者ナキモ既ニ此公債証書ハ元
ト輸出ニ供スベキ銀貨ヲ増殖スルモノニ非ナル上ハ銀
貨ハ必ラス該証書ノ有無ニ係ハラスシテ騰貴スルナル
ニシ銀貨果テ騰貴シ紙幣果テ益々下落スルハ投機者
ハ必ス上ニ陳述セシ如ク其買占タル銀貨ヲ下落セシ紙
幣ニ交換シ而テ其資金ヲ以テ復更ニ該証書ヲ買入ルハ
一ヲ得ニキナリ
故ニ政府若シ本邦ノ財主ヲシテ紙幣ノ下落ニヨリ其私
利ヲ逞フスル一ナカラシメント欲セハ右銀貨拂セノ利
附公債証書ハ紙幣ノ時相場ニ從テ之ヲ賣渡サハルヲ得
ス然ラバ則テ該証書ハ紙幣ヲシテ又他ノ物品ニ對シテ
幣ニ一定ノ購買力ヲ有セシムル一能ハザルベシ

第七 乙前項ノ理由ナルヲ以テ人若シ該公債ノ成案如何
ヲ問ハ、僕將ニ答ハテ言ハントス是レ獨リ紙幣ヲ減シ
テ國債ヲ減スルニ非レハ國債ノ利金ヲ仕拂フカ為ノ歳
出ヲ増殖スヘク則チ國債ノ償還ヲ緩除ナラシムルカ若
クハ租稅ヲ増課スルニ至ルヘシト

第八 或ハ曰シ此公債ハ紙幣ヲ以テ買入ルハキモノナ
リト雖ニ其利金ハ政府ヨリ銀貨ニテ拂渡スベキ約定
ナルカ故ニ之カ為ノ或ハ紙幣ノ相場ニ影響ヲ與フル
ナカラスヤ曰ク否更ニ影響ヲ與ヘサルニシ何トナレハ
假令ニ銀貨ヲ以テ利金ヲ仕拂フモ是レ内國ニ存在スル
銀貨ノ額數ヲ増殖スルニ非スシテ只其所有主ヲ交換ス
ルニ止マルノミナレバナリ蓋シ此銀貨仕拂ニ因テ是レ
マテ準備金トシテ貯藏セラレ未タ世上ニ現出セサル銀

貨ヲ流融ニ供スルカ故ニ其際必ラス嘗テ政府ヨリ其貯
藏銀貨ヲ市場ニ賣出シタル時ト同一般ノ影響ハアルニ
シト雖ニ恐クハ忽チ準備銀貨ヲ消耗シ遂ニ之レヲ外國
ニ募集セザルヲ得サルニ至ルヲ
且銀貨ヲ以テ利金ヲ仕拂フカ為ノ生スヘキ此影響ハ蓋
シ大ナルモノニ非サルニシ何トナレハ其拂渡スベキ
銀貨ハ之ヲ其需要高ニ比スレバ實ニ僅少ノ金額ナルベ
ケレハナリ

第九 右公債ハ銀貨ヲ以テ十二ヶ年間ニ償還セラレベ
キモノナリト雖ニ如斯キ僅少ノ年限ヲ以テ償還ヲ約定
スルハ理財及ヒ政略上ニ於テモ其当ヲ得ルモノニ非サ
ルカ如シ何トナレハ一旦事アルニ臨テ政府ハ勢約束ヲ
履行スルヲ得サルニ至ル危難ナシトス可カラス政府若

レ果テ約束ヲ破ラシムル乎假令姑ク其徳義ヲ害スルト其反
對政黨ニ銳鋒ヲ與フルノ害アルトテ問ハザルモ政府ハ
之レカ為ノ甚シキ損失ヲ以テ其信任ヲ買ハサルニカラ
サルノ害アレバナリ且ツ如此キ償還約定ハ何レノ國ノ
財政ニ於テモ通常行ハサル所ニシテ多クハ其便宜ノ時
ニ於テ償還スベキ自由ヲ保有スルカ或ハ元利償還年額
ヲ定テ(初年ノ償還金額ヲ多クハ之ヲ百分ノ十ト定ム)償
還スルナリ

又償還ノ期限ヲ久遠ニシ或ハ更ニ期限ヲ約定セサル片
ハ之カ為ノ公債証書ノ元價ヲ低落スルニ至ル恐レアル
ヘシト雖ハ是レ決シテ恐ルハニ足ラザルナリ夫ノ歐米
各國ノ公債証書ハ迄コロ更ニ其償還ノ期限ヲ約セサル
アリ而ルモ之ニ係ハラスシテ本價或ハ本價以上ノ價額

ヲ有セリ是レ他ナシ政府若シ果テ信任ヲ有スル片ハ其
價格ハ償還ノ期限ニ係ハラス唯利子ノ拂ヒ方ト割合ノ
如何ニ因テ定マルモノニシテ該証書ノ所有主ニ在テハ
假令ニ政府ヨリ償還セラレサルモ常ニ取引所ニ於テ之
ヲ賣却シ以テ其元金ヲ領収スルヲ得ルカ故ニ政府ノ
償還約定ハ敢テ其所有主ニ必要ナルモノニ非ザレハナ
リ且ツ短途ノ年限ヲ以テ其償還ヲ約スルハ唯タ証書ノ
利子通常市間ノ利價ヨリ低廉ナル時ニ於テノミ其價位
ヲ騰貴セシムルヲ得ベク之ニ反シテ証書ノ利子更ニ市
間ノ利價ヨリ高貴ナル時ニ於テハ却テ其價位ヲ下落セ
シムルモノナリ

第十 償還期限ノ短途ナルハ後日外債ノ募集ヲ要セサ
ル能ハサル恐レアリ

第十一 紙幣ト銀貨利附公債証券トノ交換ニ付僕ハ尚
ハ此也ノ充容ヲラレテ恐ル即チ本邦ノ進取力ヲ減ス
ル是レナリ今假リニ本邦融通ノ紙幣ハ需求ノ度ヲ越ヘ
テ過多ナリト想像センニ其結果ハ人民中有餘ノ資金ヲ
所有スル者ハ必ス之ヲ運用シテ益利ヲ獲ンテ謀ルカ
若クハ之ヲ其娛樂ニ消費スルベシ然リ而テ世人ノ實驗
ニ從ハハ苟モ有餘ノ金アルモノハ自ツカラ消費高ヲ増
殖シ又之ヲ増殖スルニ從テ生産ヲ獎勵且増進スルヲ常
トス況ヤ其余金ヲ運用シテ益利ヲ獲ルヲ謀ルモノニ於
テラヤ産業ヲ興シ生産ヲ増進スル固ヨリ論ヲ待タサル
ナリ

夫レ然リ故ニ政府今一定不易ノ價格ヲ有スベキ銀貨拂
ヒノ利附公債ヲ以テ巨多ノ紙幣ヲ換収スル片ハ則チ是

レ各人民ヲシテ其經濟ニ勤勞スル一ナクモ能ク其金
ヲ安全ニ利用シ得ヘキ便益ヲ與フルガ故ニ即チ其進取
力ヲ減耗スルモノト云フベキナリ然リ而テ本邦ノ如キ
ハ先ツ此氣力ヲ喚起養成スルヲ以テ緊要トナセハ則チ
深ク本邦ノ為ノ歎惜セサル能ハス

第十二 故ニ經濟上ニ於テハ利附ノ内債ヲ募ラシテ
紙幣ヲ償却スルヲ利アリトス

第十三 以上ノ理由ナルヲ以テ此銀貨拂ヒノ利附内債
ハ既ニ上第八項及ヒ第十項ニ於テ陳述セシカ如ク其極
遂ニ外債ヲ募ルノ已ムヲ得サル場合ニ至ラン一ノ愈空
想ナラサルヲ視ルニ是ルベシ然リ而此外債ノ可否如何
ニ付テハ僕既ニ二年前編述セル日本公債辨ニ於テ兩所
ニ所見ヲ陳述シタリキ請フ茲ニ之ヲ抄舉セン

其一ニ曰ク試ニ日本ニ於テ此紙幣壹億二千万円ノ代リ
ニ五分利附公債壹億二千万円ヲ募リタリトセン乎其損
失果シテ如何ソヤ則チ年々其利子トシテ六百万円ノ金
貨ノ外出スルヲ免レス而シテ年々此六百万円ヲ補フニ
内國品輸出高ヲ以テスルヲ得スンバ(必ス如斯キ場合ア
ルベシ何者貿易損益比較上常ニ日本ニ損失多ケレハナ
リ)年々此利子六百万円ヲ補フカ爲メ更ニ公債ヲ募集セ
サルヲ得ザルベク而シテ此利子ハ再公債ヲ募集シテ以
テ補ハザルヲ得ザルベシ今姑ク日本政府ハ此等ノ公
債ヲ募ルニ始終五分利附且ツ本價平均ヲ以テ募集スル
ヲ得ルモノト假定シ其公債ハ果シテ如何ノ額面ニエ
ルベキヤラ尙ハシニ凡ソ二十八年半ニ於テ五分利附壹億
二千万円ノ利子ニ五分利子ヲ加ヘ其金額五分利附四億

八千万円ノ巨額ト爲ルベシ云々
又其二ニ曰ク抑々國債ヲ斷ハス新タニ増殖スルハ健全
ナル國家ニ離ルベカラザルモノナリ蓋シ國債ノ増殖ヲ
以テ悉ク健全ヲ保ツモノト云フベカラスト雖氏如シ此
増殖ニ因テ其利子及ビ充金ヲ償還スヘキ稅力ヲ増進ス
ル片ハ則チ唯ク之ヲ健全ヲ保ツモノト云フベキノミ
然リ而シテ僕今左ニ獨逸國經濟博士「スタイン」氏ノ銘言
ヲ抄出シテ以テ此編ノ局ヲ結ハシ其言ニ曰ク
抑々國債ハ政府現世ニ於テ永久ノ公益ヲ謀リテ之ヲ使
用シ而シテ後世ニ於テ其利益ヲ受用セシムルヲ得ベ
キモノナリ故ニ政府ニテ經濟上ノ目的ヲ達セシムルカ爲メ
數代ニ永続スベキ事業假ハ建築道路鐵道鑛山及々殖
民舟楫ノ便水路港灣等ヲ開キ或ハ敵ニ向テ人民ヲ保護

大藏省

スル等ノ事アラシキニ後世此恩澤ヲ受用シテ以テ之レカ
為ノ現世ヨリハ其利益ヲ受クルト多カラシ故ニ若シ政
府ハ如斯キ起業費ヲ費スラ好マサルカ如キトアラハ特
リ其施政ノ宜キヲ得サルノミナラス全ク經濟ノ理ニ反
スルモノト云フベキナリ故ニ如斯キ大業ノ要費ニシテ
悉皆特リ現世ニ於テノミ負擔スベキ國債ハ真ノ國債ニ
非ス國債ハ元來後世ヲ現世ト連結スルモノニシテ其金
高ニ依リ現世ニテ後世ノ國力ヲ増進スルカ為ノ經濟工
幾多ノ事業ヲ起シタル乎ト明示スルニアルノミ將タ國
債ハ別ニ幸福ナルモノニ非ス又不幸ナルモノニ非ス畢
竟國家ヲ組織スル一元素ニシテ決シテ偶然起生スルモ
ノニ非ス亦避クベキモノニ非ス乃チ國家ノ經濟ニ及ク
ベカラサル成分ナリ故ニ文運漸ク増進シ國家倍々其職

分ヲ尽サント欲セバ國債ハ益々國家經濟上ノ要具トナ
ルモノナリ國家若シ國債ヲ有セサル片ハ後世ノ為ノニ
スル所累シテ僅少ナルベク或ハ後世ノ為ノニスル大ニ
シテ現世ニ求ムルト甚タ多クルベシ蓋シ國家ニハ或ハ
過分ニ之ヲ有シ或ハ其利用ノ方法及々目的ヲ誤マルモ
ノアルモ國債ハ必ス之ニ存在スルモノニシテ古來國債
ヲ有マスシテ文明ヲ致セシモノハ未タ曾テアラサルナ
リ夫レ然リ故ニ國債ナクンバ決シテ文明ニ入ル能ハサ
ルベシ云々
蓋シ「スタイン」氏ノ論スル所ハ要言スレバ抑々國ノ公債
ヲ起スハ是ニ因テ其利子及々元金ヲ償還スルニ足ルベ
キ稅力ヲ増進スルニアリト謂フニ在リ
是ヲ以テ銀貨募債ノ問題ハ僕ヲ以テ之ヲ視レバ若シ本

邦ニ於テ獸毛、綿、砂糖及ヒ石油等ノ輸入超過高ク仕拂フ
カ為ノ銀貨ヲ外國ニ募集スト云ハ、經濟工具策ヲ得セ
ルノミナラス大ニ本邦ノ害スルニ足ルベシ何トナレハ
此物品タルヤ決シテ内國ノ生産力ヲ増進スルモノニ非
サレハナリ然レモ若シ此銀貨ヲ以テ商船又ハ鐵道用品
ノ如キ輸入品ノ買入レニ供スト云ハ、本邦自
ツカラ其輸出品ヲ以テ是費用ヲ償フ能ハサル間ハ經濟
上固ヨリ其策ヲ得ルモノトス(第 一)何トナレバ商船及
ヒ鐵道用品ノ買入レニ屬スル出費ハ即チ生産ノ費用ニ
シテ畢竟内國ノ輸出力ヲ増進スルモノナルカ故ニ輸出
自ツカラ其元利ヲ償却シ又輸出自ツカラ銀貨ヲ以テ之
ヲ償還スルモノナレバナリ

